

シリーズ
18
高畑

若い活力みなぎる地区

■今月の「おじゃまします」——地域情報ネットワークは、楽しいお盆も終え、これからがいよいよ秋本番。稲刈りにむけてその準備も忙しい高畑地区におじゃましました。

ここ高畑は、村の北端にあり、巻町に隣接して、高畑、車田、植野新田、の三つの離れた小字が集って形成する特色をもつ地区です。「ここから眺める弥彦、多宝の山脈は本当にきれいでしてね、季節によって変化する様は絵をみるようです。高畑のよさはこんなところにもあります。歴史的には梅田という小字もあるのですが、車田に含めて、この三つを高畑と総称しているんです。三角形の位置に離れています。どうして、みなさんの心



車田地区の入口には地区公会堂と神社が建つ(写真上)
戸数が3戸と小さいけれど活気がある植野新田(写真下)

は円く、まとまりがあるんですよ。」と話してくれるのは区長の阿部修平さんです。岩室村の北の端で今こそ道路の状況がよくなり、さほど距離感も気にならないが、小さいところは岩室までが遠く感じられたといいます。そのためかどうかが隣接の巻町との交流は昔から深く、世帯の大部分が巻町に縁続きをもっているそうです。現在でも車田地区の電話が巻局になっている不思議(?)について区長さんは、「たしか昭和30年頃だったと思いますが、不測の事態の連絡措置として、地区を挙げて運動をし、公衆電話の設置を実現させたんです。立地条件による自衛手段だったんですが他に電話がすぐない時代ですから大変なことだったんです。以来、車田地域だけが巻局となっていて先人の偉大さを思うとともに、今では誇りの一つにもなっています。」と歴史の思い出話の中にこの地域のひとつ特徴の一面を伺い知ることができました。

主要産業の農業は、平均耕作面積が約3町歩と比較的経営規模も似かよっており、農業を通した結びつきや、まとまりは強く、特に営農の柱には、若手がとってかわってがんば

っており活気が感じられます。

「厳しい農業情勢だからこそ、若い活力が必要なんだ、という考え方から、世代交替は早く進んでいるようです。ですから50歳代で田に出ていく人はほとんどないんです。共通していえることは農業にかけやる意欲は高いということです。もちろん、婦人会や老人クラブ、子ども会の活動も盛んですがね。正直いって集落がわかれている弊害も多少はあるよ



高畑区長
阿部修平さん
(55歳)



高畑地区の守り神でもある諏訪様

うに思える時もあります。こんなことは、小さい問題ですよ。」と阿部区長さんによる高畑像のまとめでした。農業の近代化が進み、大規模経営などにより、転換を迎えている農業への対応も早く、純農業地域として活気のみなぎる高畑……。コンパインの音も高く、今一番忙しい収穫の秋を迎えています。

高畑
ミニデータ

(人口と世帯)

人口	189人
男	90人
女	99人
世帯数	34世帯

(平成元年8月1日現在)

北陸街道スケッチ展

8月15日～9月30日

北陸街道の歴史は古く、その道すじは都に通じています。この道すじは、時代とともに変遷してきたことだと思えます。都を追われた悲運な人。都に愛した人を訪ねてのぼる人。街道に沿って働く人。風雅に身をまかせて旅する人。いろいろの道往く人がいたことだろう北陸街道。そんな良寛の乞食の道。そんな芭蕉の俳諧の道を往時の人々の風情を偲びつつ松野尾から五合庵までの三十景を展示していますので、ぜひ、ご覧ください。

■展示期間：八月十五日～九月三十日まで
■とことろ：公民館ロビ

■作者：山田慶二さん(吉田町)

